

平成23・24年度

『ふるさと国東の偉人伝』の刊行について

記者発表資料

日時 平成25年6月14日（金）
午後1時30分～

場所 アストくにさき
3F会議室

国東市教育委員会
文化財課

《刊行の経緯》

国東市は、国東半島の東側に位置し、おだやかな気候と海・山のすばらしい自然に恵まれ、こうした自然の中で豊かな歴史と文化が育まれました。

そして、日本の歴史の中で重要な役割を果たした人、様々な分野で大きな功績を挙げた人、そして地域貢献に力を尽くした人など、さまざまな分野で偉業を残し、全国・世界に誇れる優れた先人が生まれ育ったふるさとです。

平成18年3月末の国東市合併当初から、各方面の方々より旧四町の偉人伝を作成してはとの声が数多く寄せられていました。今回、「住民生活に光をそそぐ交付金事業」の採択を受けたことから、「ふるさと国東の偉人伝」を作成・発行いたしました。

《作成作業について》

作成に当たっては、教育委員会文化財課を事務局として、市内外の有識者等による編集委員会を組織し、掲載する人物および執筆者の選考を行いました。

また、市内の中学校の国語・美術教員および退職美術教員で校正部会・挿絵部会を組織し、文章の校正や挿絵の制作を行いました。

その後、監修者と事務局で記述内容やレイアウトの確認・修正を行い、編集委員会で最終的な内容の確認を行いました。

〈編集委員会〉

○編集委員の内訳（肩書きは平成24年1月時点のもの）

- | | | |
|--------------------|------|------|
| ・国東市図書館協議会長（編集委員長） | 1名 | |
| ・県立先哲資料館長（監修） | 1名 | |
| ・日本ペンクラブ会員（国東市出身者） | 1名 | |
| ・国東市内中学校長 | 代表1名 | |
| ・国東市文化財調査委員 | 4名 | |
| ・文化財課特別顧問（別府大学講師） | 1名 | |
| ・三浦梅園資料館研究員 | 1名 | 計10名 |

○編集委員会での協議事項

①対象年齢層：小学校高学年から中学生

②人物の選考基準

以下の4点を基準として人物を選考しました。

- i) 国東の歴史・文化・産業・福祉・教育に貢献した人物
- ii) 子ども達が生きる指針となる人物
- iii) 子ども達の人格形成に資する人物
- iv) 十分な資料がなくその事績が検証できない人物は除く

③活用方法

市内の学校（小・中・高）や図書館などの教育施設に配備。

※平成25年度児童・生徒数

小学校（11校）1,255名（5・6年生 442名）

中学校（4校）780名

〈偉人一覧〉

①特に事績を詳しく紹介する人物14名（1人10ページ程度。挿絵・写真入り）

	名前	出身・縁の地区	事績
1	ペトロ岐部 ^{きべ}	国見町	日本人で初めてエルサレムを訪れたキリスト教司祭。信念を貫き殉教した。
2	綾部道弘 ^{あやべみちひろ}	武蔵町	苦学しながら後進の学者を育て、郷土の教育・学問の祖となった
3	三浦梅園 ^{みうらばいえん}	安岐町	天地の真理を探究した学者
4	清虚 ^{せいきよ}	国見町	海上安全に生涯をささげ、灯台の代わりに火を焚き続けた
5	元田 肇 ^{もとだ はじめ}	国東町	高潔な人柄で衆議院議長も務めた政治家
6	渡辺勘十郎 ^{わたなべかんじゅうろう}	武蔵町	日本初の民間移民事業を行った
7	後藤ヨネ ^{ごとう}	国東町	裁縫学校を開き郷土の女性教育の先駆者となった
8	田原 淳 ^{たはら すなお}	安岐町	心臓が拍動する仕組みを解明した病理学者
9	森 清克 ^{もり きよかつ}	国東町	県立盲学校の創設に携わり大分県の盲教育の発展に尽くした
10	河野清実 ^{こうのきよみ}	安岐町	安国寺集落遺跡を発見した郷土史研究者
11	吉武東里 ^{よしたけとうり}	国東町	国会議事堂を設計した建築家
12	重光 葵 ^{しげみつ まもる}	安岐町	外交官・外務大臣として戦前・戦後の激動の時代に日本外交を支えた
13	末綱恕一 ^{すえつなじょいち}	武蔵町	固い信念と努力で日本数学会の重鎮となった

14	ともなり つ く も 友成九十九	国東町	国産初の合成繊維ビニロンの工業化を成功させた
----	---------------------	-----	------------------------

※掲載は生年順

②簡単に事績を紹介する人物19名（半ページ、写真1点）

	名 前	出身・縁の地区	事 績
1	ゆきひら 行平	国見町	鎌倉時代の刀匠。国宝指定の作品も残す名工
2	こはらさんべい 古原三平	安岐町	和算の研究に取り組んだ学者
3	こうばげんじゅ 甲原玄寿	武蔵町	儒学を修め教育に務めた医者
4	わたなべはるさだ 渡辺春貞	安岐町	将軍と天皇に仕えた侍医
5	よしたけこうしろう 吉武幸四郎	国見町	地域農業の発展に尽くした
6	はた ぶんぞう 秦 文蔵	国東町	私財を投げ打ち多くの治水灌漑事業に尽くした
7	たかはしよしのぶ 高橋義信	武蔵町	地域医療に尽くし仁医と呼ばれた
8	いけべむねさぶろう 池辺棟三郎	安岐町	大正天皇の侍医を務めた
9	かやしまよねさぶろう 萱島米三郎	国東町	酒造業に勤しみ、国東の酒を全国品評会で一位にした
10	わたなべしやうご 渡辺省吾	安岐町	宮内省侍医を務め、地元公会堂を提供した
11	まつもとこそん 松本古村	国東町	大分県の初代美術協会長となった日本画家
12	にしやま いかり 西山 錨	安岐町	苦心してみかん園を開拓し、国東地方のみかん栽培の先覚者となった
13	はやまこうざぶろう 葉山耕三郎	国見町	被爆後、短歌一筋に情熱を燃やし、九州歌人協会などを設立した
14	おがわていざう 小川鼎三	国東町	旺盛な好奇心と探究心で解剖学と医学史の発展に尽くした
15	たきぐちたけし 滝口武士	武蔵町	詩の道に精進し、大分県詩人協会長を務めた

16	えとう てつ 江藤 哲	国見町	「自分の世界」を追求した画風が高く評価された洋画家
17	やまもと たもつ 山本 保	国東町	国東をテーマに歌を詠みつづけた歌人
18	かわいせいとく 河合誓徳	国見町	故郷の風景から得た独自の色付けが評価された陶芸家
19	たかぎせいげん 高木清玄	国東町	大分県最後の盲僧

※掲載は生年順

〈執筆者〉

執筆者総数は26名です。(複数執筆している方がいます)

内訳：編集委員6名・元国東市文化財調査委員2名・国東市文化財調査委員1名・郷土史等研究者4名・教職員2名・学識者2名・偉人の縁者8名・事務局1名

〈校正部会〉

市内の中学校の国語科教員3名に文章の校正をお願いしました。

作業内容は、執筆要領に照らして、文体(「です」「ます」調)や年号表記などが要領に沿って書かれているか、また、漢字や言葉づかいが現代の中学生程度で読めるものになっているかのチェックをしました。

また、記述内容に史実との齟齬がないか、偉人伝の趣旨に沿っているかを監修者がチェックし、最終的に編集委員会で内容を確認しました。

〈挿絵部会〉

挿絵は市内中学校の美術科教員3名と、市内在住の美術教員OB3名、事務局1名で担当(総論と第2部の偉人14名)を分担して制作しました。場面については、執筆者の希望を確認して描きました。

〈写真のご協力〉

写真は執筆者および事務局が用意したもののほか、下記の機関からご提供いただきました。

- ・大分合同新聞社(人物肖像写真9点)
- ・県立歴史博物館(行平：刀1点)
- ・参議院事務局(吉武東里：国会議事堂写真3点)
- ・株式会社クラレ(友成九十九：倉敷レイヨン本社工場全景1点)
- ・北九州市観光協会(清虚：部埼灯台写真1点)
- ・元田肇記念館(元田肇肖像写真1点)
- ・東京大学大学院数理科学研究科(末綱恕一：国際会議1点)

- ・藤田晴一氏（肖像写真2点・天球儀1点）

〈題 字〉

表紙の題字は、市内の書道家 牧泰濤氏の筆によるものです。

〈冊子の体裁〉

①装丁・サイズ

- ・B5版カラー印刷（ランドセルに出し入れしやすいサイズ）
- ・ハードカバー、上質綴じ（長く利用できるよう丈夫な製本に）
- ・総ページ数 200ページ

②構成

- 刊行あいさつ・国東市長、国東市教育長（2ページ）
- グラビア「国東の偉人を訪ねて」（7ページ）
 - ・市内の偉人に関する施設の写真紹介
 - ①国見郷愛記念館（江藤 哲、河合誓徳）
 - ②ペトロカスイ岐部神父記念公園（ペトロ岐部）
 - ③国見ふるさと展示館（ペトロ岐部）
 - ④元田肇記念館（元田 肇）
 - ⑤三浦梅園資料館（三浦梅園）
 - ⑥三浦梅園旧宅（三浦梅園）
 - ⑦山溪偉人館（重光 葵）
- 目次（4ページ）
- 第1部「総論」（11ページ）
 - ・国東の風土と歴史からみた人物概論
- 第2部「偉人伝①」（128ページ）
 - ・特に事績を詳しく紹介する人物14名
- 第3部「偉人伝②」（11ページ）
 - ・簡単に事績を紹介する人物19名
- 国東の偉人年表（19ページ）
- 巻末あいさつ・参考文献一覧・例言（14ページ）
- 「国東の偉人マップ」B4サイズ折込1枚

③製作部数・1,250冊

〈事業経費〉

○総事業費・・・3,900,850円

(内訳) 報償費：1,330,000円(執筆料・編集委員謝金等)

※H23年度46,000円、H24年度1,284,000円

費用弁償：50,850円(編集委員会)

※H23年度15,850円、H24年度35,000円

印刷製本費：2,520,000円(H24年度)

《今後の活用方法》

本書は、市民の皆様が改めて国東に対する理解を深め、自分のふるさと国東に関心と愛着を感じ、目標や信念を持ってその実現に向けて努力するための一助となることを目的としています。特に小・中学生・高校生には、ふるさとの先人の生き方や、先人を育んだ風土に新たな出会いと発見を期待し、各学校で国東の歴史や文化と合わせ、そこに生きた先人たちの業績・功績などについて学ぶ学習教材として大いに活用していきたいと考えております。

- ・市内小・中学校、高校、市立図書館(4館)に配布

各学校においては、学校図書として配置し、総合学習等の授業で活用していただきます。

- ・普及版の製作

新成人に記念品として配布するなど、さらなる啓発のため、装丁を簡易なものにした普及版を製作することを計画しています。

- ・『ふるさと国東の偉人』33人展(仮称)の開催

国東市歴史体験学習館において、企画展を開催することを計画しています。

開催期間：平成25年12月上旬～平成26年3月末(予定)